青雲館新聞

横手高校定時制

横手市前郷二番町10の1
☎0182・32・2011
▽生徒数＝112人　▽学級数＝10

【教育目標】
一人ひとりの成長と社会性の育成
―見守る温かい目と
社会につながる毅然とした指導―

【題字の解説】
横手高校定時制の校舎は、校章「青雲」にちなんで「青雲館」と名付けられています。題字は学校で発行している新聞と同じ「青雲館新聞」としました。

百人一首で白熱

全校大会　先生チームも参戦

生徒チームと先生チームの対戦。この日は先生も夢中になって札に手を伸ばした

横手高校定時制（横手市）の「全校百人一首大会」が1月23日に体育館で開催された。今年の個人優勝者の獲得枚数は20枚。昨年の個人優勝者の35枚にはおよばなかったが、白熱した戦いで大会は盛り上がりを見せた。

大会は今年で7回目。対戦方式は、ばらばらに並べられた取り札から、読まれた札を取る「ちらし取り」で行われた。生徒は1年から4年までが紅白に分かれ、3、4人の学年混合チームが組まれた。普段、親交の少ないメンバーのチームは緊張している様子だった。

しかし、試合になると白熱するグループが目立った。上級生は獲得枚数が多く、負けずに頑張る下級生も見られた。大会には先生のチームも参加しており、練習会場で練習している先生方の姿も見られた。

今大会の勝利チームは47枚の組だったが、白組も473枚と大接戦だった。全校生徒が真剣に挑み、盛り上がった大会となった。

運営は教職員に頼らず、新旧生徒会が中心に行った。大会初期に比べると、札が小さいことや進行状況の把握が難しいという問題点も改善され、スムーズな運営だった。

体育館に設けられた六つの試合場で対戦

生徒会は今後も要望があれば改善し、さらに充実した百人一首大会になるよう心掛けていくそうだ。

（2年・和泉海佑）

新聞活用に力

各種コンクールで表彰

全国では学校教育に新聞を活用する取り組み「NIE（Newspaper in Education）」が行われている。横手高校定時制でも新聞を学校生活に積極的に取り入れ、中でも出版委員会による「青雲館新聞」は高い評価を得て表彰を受けている。

県学校新聞コンクールの表彰式で秋田魁新報社賞を受けた出版委員（右）

2014年度は「インターハイ新聞コンクール」（読売新聞社）の奨励賞、「県学校新聞コンクール」（県高校文化連盟新聞部会）では秋田魁新報社賞を受賞し、活動を認められた。

新聞制作を行う委員会は全日制高校でも多くはないが、出版委員会は少ない人数ながら積極的に活動している。

また、全校生徒が新聞の記事を用いた進路スクラップを行い、自らの考えを広げ、進路決定などに活用している。

記事に対する意見をまとめる「いっしょに読もう！新聞コンクール」（日本新聞協会）で学校奨励賞を受賞するなど、さまざまな形で新聞が生かされている。

学校ホームページでは青雲館新聞を閲覧できる。ぜひご覧いただきたい。

（3年・中山長太）

学校にかまくら完成

一般公開　来場者でにぎわう

冬の恒例行事である「かまくづくり体験」が学校駐車場の一角で行われた。体験は2月10、13、14日の3日間。14日には一般公開され、多くの来場者でにぎわった。

かまくら作りは2008年度から毎年2月に行われていて、初めは授業の一環として行われていたが、一般公開をしたところ、思いがけず60人以上のお客さんが訪れたため、地域と関わる学校行事となった。

かまくら職人の指導の下、クラスが協力し合いながら土台からかまくらを作る。地域に伝統行事を体験することにより、ものづくりの楽しさを学ぶ。

一般公開では生徒がかまくらの中で来場者をもてなした

一般公開では生徒がかまくらの中でお客さんをもてなし、甘酒やお餅、いぶりがっこ、ミカンなどを振る舞った。

近所のお年寄りの方もいれば、配布したチラシを見てきてくれた方、横手のかまくら行事として見に来てくれた県外の方もいた。お客さんとの交流はかまくら行事の楽しみの一つだ。

今年は例年に比べ積雪が少なかったが、全校で協力し合い立派なかまくらを作った。かまくらの中は火鉢と笑顔で暖かかった。

（3年・柴田春香）

モザイクアート制作

JR横手駅　国文祭に合わせ展示

横手高校定時制の生徒たち一年、秋の学校祭に合わせて公校が作ったモザイクアートが毎年開催され、地域住民や保護者の目を楽しませている。

昨年、国民文化祭に合わせてJR横手駅にモザイクアートを展示した

本校は2008年度に校舎「青雲館」が完成して以来、学校祭の目玉として全校生徒の手でモザイクアートを制作してきた。14年度は本県で開催された国民文化祭の応援事業として、漫画「釣りキチ三平」のモザイクアートを手掛けた。

大きさは縦約4メートル、横約6メートル。1・3センチ四方に切られた色画用紙約12万枚を生徒が心を込めて一枚ずつのりで貼り付け、10日間かけ完成させた。

その後はJR横手駅に展示され、1カ月にわたって帰省客や観光客を出迎えた。現在はデザインを変更して横手駅に展示されている。

本校は「モザイクアートを担当する小川康先生は「モザイクアートは一人一人が役割をこなさなければ完成しない。それぞれが、かけがえのない存在であると見届けてもらいたいと思い、制作を始めた。これからも生徒たちの自信を育むために続けていきたい」と話していた。（3年・佐藤秋斗）

学校新聞　地域と共に

生活体験発表県大会

自分と向き合い　新たな〝扉〟開く

全国高校定時制通信制生徒生活体験発表大会県大会が昨年10月8日、秋田市の明徳館ビルで行われ、学校生活を中心とした体験を発表した。

大会は62回目。横手高校定時制からは1年の小田鳴沙和さんと私の2人が出場。小田鳴さんは、学校で濃密な時間を過ごす中、人を傷つけ、傷つけられた経験を語った。そして生きていくうえで大切なことは「勇気」を持つことだと力強く発表した。

私は、これまでの経験から、周囲の支えで成り立っていることに気づき、常に感謝の心を持って行動することを忘れないという決意を述べた。

「感謝の気持ちを忘れない」と決意を述べる佐藤杏樹さん

本校では、第60、61回ともに最優秀賞、優秀賞を獲得しており、全国大会でも審査員を務め、その文章は、自分と向き合うことで過去の自分、現在の自分を受け入れ、未来への新たな〝扉〟が開かれる。今年も作文を通して、たくさんの扉が開かれるであろうことを期待している。

（2年・佐藤杏樹）

本校では、夏季休業課題として全校生徒が生活体験作文を書く。その文章は、自分と向き合うことで過去の自分、現在の自分を受け入れ、未来への新たな〝扉〟が開かれる。今年も作文を通して、たくさんの扉が開かれるであろうことを期待している。

（2年・佐藤杏樹）

私は前日からドキドキし、発表が終わった時には足が震えていた。聞いている人たちに自分の気持ちが伝わっていてほしいとの思いでいっぱいだった。

本校では、夏季休業課題として全校生徒が生活体験作文を書く。その文章は、自分と向き合うことで過去の自分、現在の自分を受け入れ、未来への新たな〝扉〟が開かれる。今年も作文を通して、たくさんの扉が開かれるであろうことを期待している。

（2年・佐藤杏樹）

昨年9月に前期卒業式

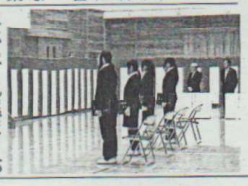
必要単位取得　4人が巣立つ

横手高校定時制には前期卒業という制度がある。この制度を利用して2014年度は昨年9月25日に4人が学び舎を巣立った＝写真。

9月の卒業は一般的ではないかもしれないが、前期卒業は現校舎「青雲館」が設立された時からある。各教科の科目を単位取得する単位制のため、必要な単位を取ると卒業できる。

単位制の特徴は自分で授業を選択することだが、自分の得意な科目だけを選ぶことはできない。必修科目があり、主要な科目を取らなければならない。それ以外は好きな科目を取ったり、逆に苦手な科目を勉強したりすることができる。

2008年度に青雲館ができてから、これまでに9人の生徒が前期卒業した。3月卒業でない理由は「全ての単位を取得したから」「就職が決まったので早く社会生活を体験したいなどさまざまだ。



定時制高校の現状についてはあまりよく知られていないかもしれないが、通っている生徒は全日制の高校生と何も変わらない。もし、定時制に興味のある方がいらっしゃったら学校に来ていただきたい。

（2年・矢代将之）

校歌

作詞・土井晚翠
作曲・小松耕輔

一
鳥海御嶽の秀づる雄姿
前後に仰がむわれらが校舎
微塵を集めて虚空を凌ぐ
自然の教へをたゞすぞ受くる

二
金沢横手の名高き古跡
左右ともに控るところ
興ある歴史の具象をみつつ
ゆかしき故郷の昔を偲ぶ

三
青春いきみのわかよの門出
剛健質朴理想として
学びの窓より光の未来
心に画きやゝまずにすむ

四
春秋二千の園の光
いよいよ増すべく勉めに勉め
ほまれを徽章の襟にあげよ
忘るな剛毅の東北健児

あゆみ

【昭和】
23年　横手工業高校定時制課程設置
35年　平鹿分校が独立し、平鹿高校となる
40年　横手工業高校、横手城南高校の定時制課程統合により横手東高校となる
開校式挙行
41年　校歌披露、校旗樹立式
44年　完給食実施。秋田東高校通信制協力校に指定される。定通併修の実施
49年　創立10周年記念式典挙行
50年　第2回全国高校定時制通信制バレーボール大会優勝
53年　第5回全国高校定時制通信制バレーボール大会優勝
60年　創立20周年記念式典挙行

【平成】
5年　横手東高校開校記念式典挙行
6年　定時制課程を横手工業高校へ移管
9年　第32回全国高校定時制通信制陸上競技大会男子走り高跳び3位入賞
10年　第33回全国高校定時制通信制陸上競技大会男子走り高跳び優勝
14年　単位制・2学期制の導入
18年　定時制課程を横手高校へ移管
20年　定時制課程の新校舎、横手高校青雲館に移転。I部・II部の2部制導入。「スペース・イオよこて」を設置。
23年　横手高校青雲館竣工記念式典挙行
2部制・1期生の卒業式を青雲館体育館にて挙行
24年　第43回全国高校定時制通信制剣道大会女子団体で県選抜の一員として3位入賞。全国国際教育研究大会第12回日本語弁論大会国際協力機構理事長賞。第60回記念全国高校定時制通信制生徒生活体験発表大会ネグロス電工賞・奨励賞
25年　第61回全国高校定時制通信制生徒生活体験発表大会日本放送協会長賞・奨励賞

次回は3月2日、合川東小学校（北秋田市）です。このほかの掲載予定日はウェブサイト「NIE@さきがけ」で紹介しています。

秋田県立 横手高等学校 定時制課程
地域と共に
私たちは横手高等学校定時制課程のみなさんを見守り応援しています。
（順不同）

一般社団法人 横手市観光協会
TEL 0182-33-7111　http://www.yokotekamakura.com/

私たちは、豊かな自然を守り続けていきます。
建設コンサルタント
奥山ホーリング株式会社
本社/秋田県横手市神明町10番39号　TEL0182-32-3475

アスカフーズ株式会社
横手市平鹿町中吉田字上藤根143　TEL0182-24-2222㈹
http://www.asucafoods.com

未来を　地域と共に
横手建設株式会社
YOKOTE
秋田県横手市前郷二番町7-13
Phone 0182-32-1697㈹

総合建設業
伊藤建設工業株式会社
代表取締役　中村清昭
横手市大町5-19　TEL 0182-32-3960
FAX 0182-32-3964

ISO9001・ISO14001 認証企業
創和 SOWA CORPORATION 建設株式会社
横手市駅前町13-8　TEL0182-32-2680㈹
FAX0182-32-7500

信頼・創造
株式会社 大和組
横手市平和町10-30　TEL 0182-32-3434
FAX 0182-32-3499

めがね・補聴器
新春お年賀セール
年賀状を持って、レ・メエルに行こう！
ご親戚・ご友人・大切な方からの年賀状、当たっていませんか？
特賞 メガネ一式 90%off フォックス02015
1等 メガネ一式 70%off フォックス0101
2等 メガネ一式 50%off フォックス50・55
3等 メガネ一式 30%off フォックス2・4・6
4等 補聴器 70%off フォックス3・9
セール期間2月末日まで
※一部セール対象外あり。
※全て通常価格からの割引です。
日ごろのお手持ちの眼鏡に、上記賞品のものがございましたら、ぜひご来店くださいませ。
Les.mere レ・メエル
TEL.0182-35-5550
秋田ふるさと村近く
レ・メエル　検索

■木製建具、ユニボード什器、建具　設計・製造
木と語り合うこと　木のぬくもりを語ふ人を「やさしくする会社です。
有限会社 小松木工
ISO 14001 認証取得
〒013-0306 横手市大雄字田村66-5
TEL.0182-52-2149　FAX.0182-52-2107

敬びは、歴史を刻む建物とともに
平源 Guest House HIRAGEN
〒013-0021 横手市大町6-24　TEL.0182-33-1100

いでは
私たちは皆様のパートナーとして安心と幸せを提供いたします。
損害保険・生命保険の総合保険代理店
有限会社 トータルホケン いでは
〒013-0063 秋田県横手市婦気大堰字婦気56-1
TEL.0182-35-4235／FAX.0182-35-4236